

研究課題：直腸肛門奇形術後経過における神経因性膀胱発生の予測因子として膀胱縦横比の検討

1. 研究の目的

直腸肛門奇形とは肛門がちゃんとした場所にできていなかったり、膣や尿道と直腸がつながっていて、そこから便がでる病気です。治すには直腸をちゃんとした肛門の位置につける手術が必要です。手術後も、もともと神経や筋肉がうまく作られなかったために直腸膀胱障害を認める患者様が一定数います。直腸肛門奇形における直腸膀胱障害のリスクの予測因子を検討します。

2. 研究の方法

2000年1月から2018年12月までに当院外科で直腸肛門奇形の根治術を受けた患者様が対象となります。診療録をみて、体重・性別・直腸肛門奇形の型・術後の直腸膀胱機能の有無・導尿の必要性の有無などの情報を調べてまとめます。

3. 研究期間

2025年5月（倫理委員会で承認を得られた日）から2027年3月まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

直腸膀胱造影検査やその後の経過を画像検査結果、カルテの記載から、検査に関する事柄（画像、検査所見、治療方法）を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：泌尿器科 医長 吉澤 信輔

研究分担者：泌尿器科 科長 大橋 研介

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2025年8月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）